

水田作経営の現状を踏まえて －これからの米作りを考えよう！－



北海道立総合研究機構 農業研究本部
中央農業試験場 農業システム部 農業システムグループ

1

本日の報告内容

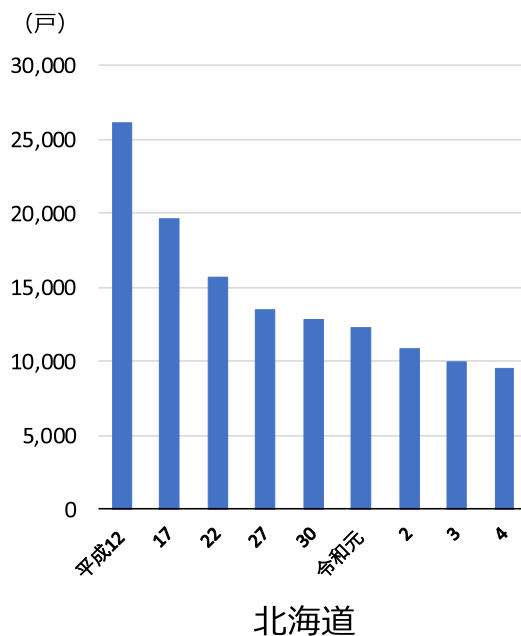
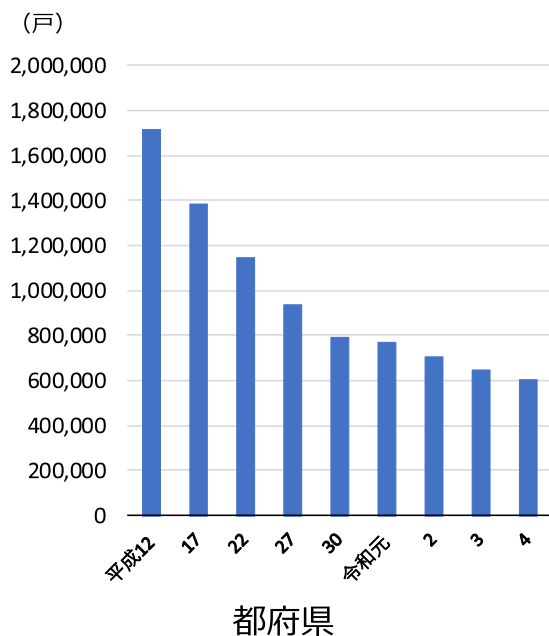
1. 生産基盤の現状をおさえよう！
→作付戸数等から、今後の生産基盤を共有
2. 水田作経営の現状はどうなっているのか？
→米生産費等から、収益性向上と低コスト化
に向けた対策（ヒント）を見つけよう
3. これからの米作りを考えよう！
→「誰が、どのように作るのか？」の視点で
何をすべきか考えよう

2

1. 生産基盤の現状をおさえよう！

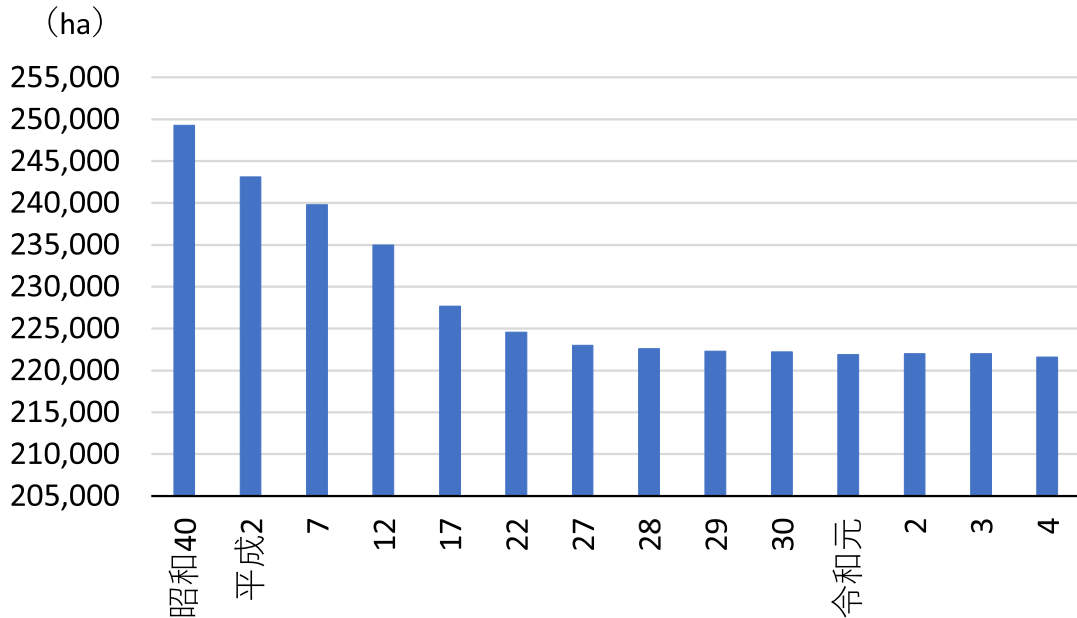
水稻作付戸数の推移

- 都府県、北海道とも減少に歯止めがかからず
- 令和4年 北海道：9,500戸が作付け
→今後も減少が予測される



田面積の推移 - 北海道 -

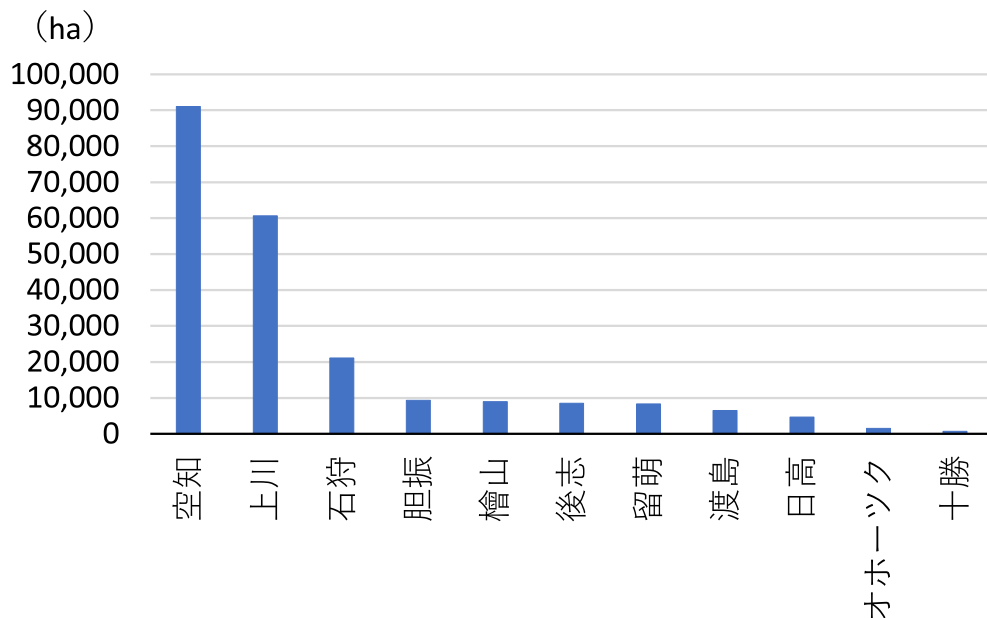
- 平成27年頃まで縮小、その後、横ばいで推移
- 令和4年 北海道：約22万ha
→今後、全道の動向が注目される



5

田面積 - 総合振興局・振興局別 -

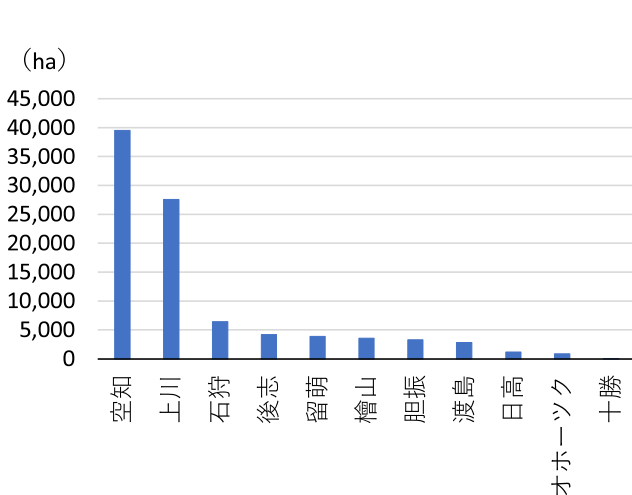
- 令和4年：空知、上川がメイン
→今後、各地域の動向が注目される



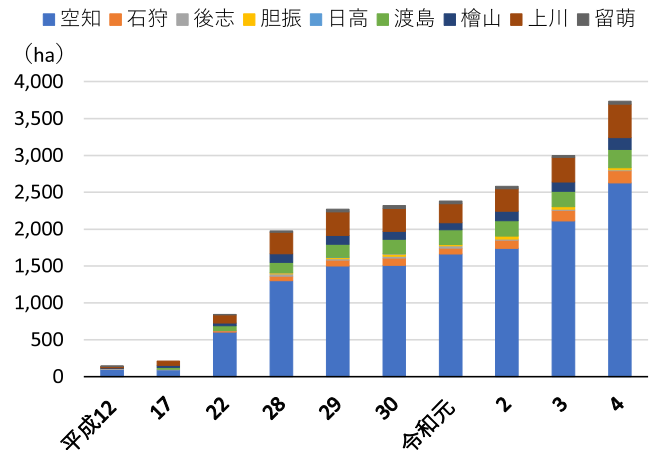
6

水稻の作付面積 – 総合振興局・振興局別 –

- 令和4年 全国：135.5万ha、北海道：93,600ha
- 直播栽培の面積：空知、上川、渡島を中心に拡大！



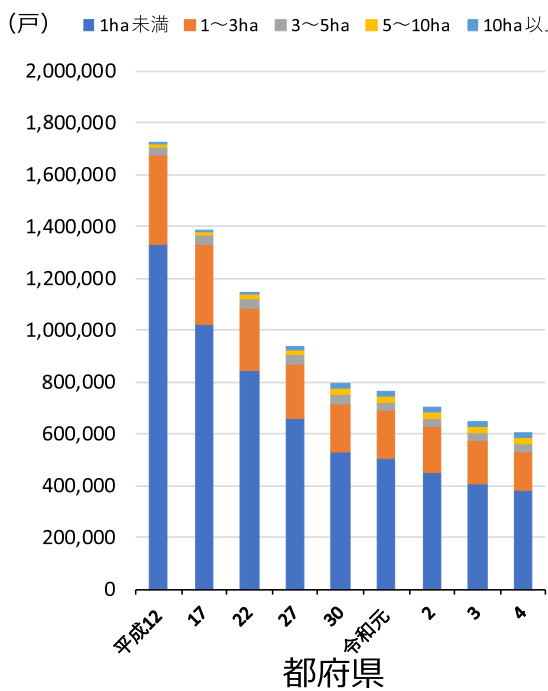
作付面積



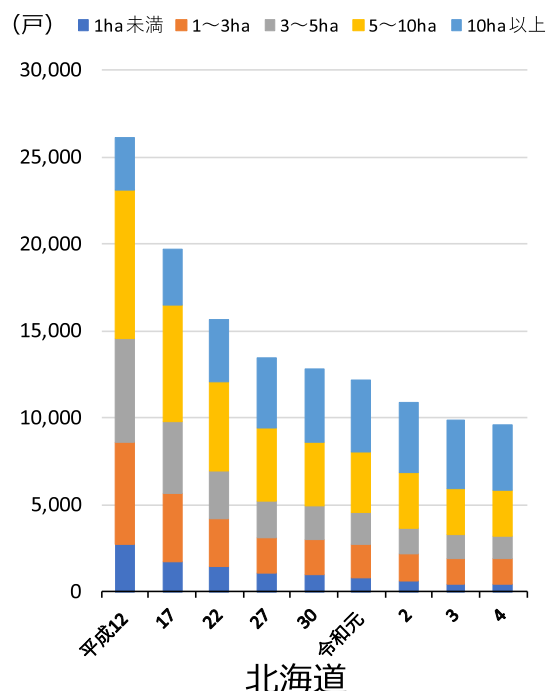
直播栽培の面積

水稻作付け 1戸当たりの水田面積

- 都府県：3ha以上の経営 → 都府県の約1割
- 北海道：10ha以上の経営 → 北海道の約4割



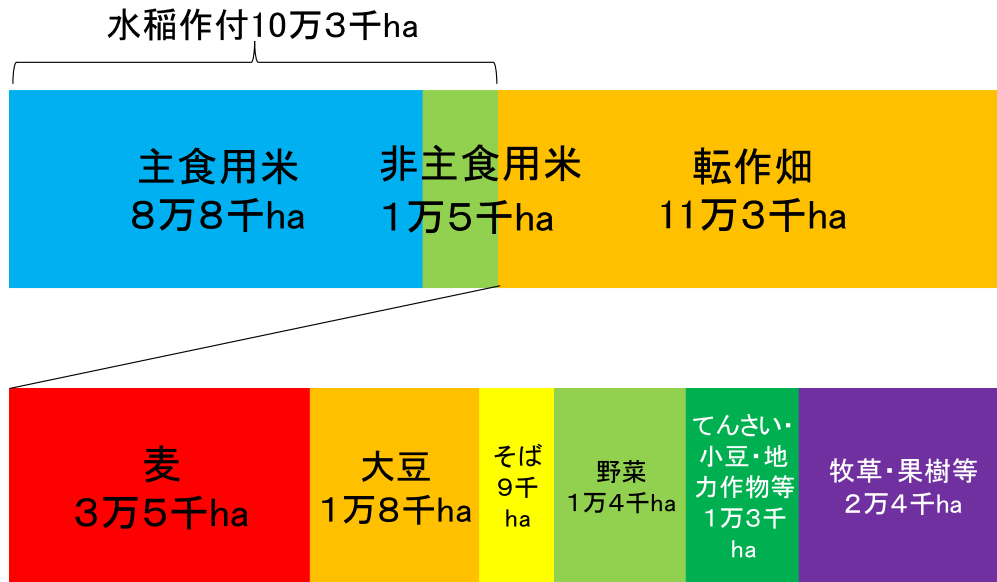
都府県



北海道

「転作」の現状 - 北海道 -

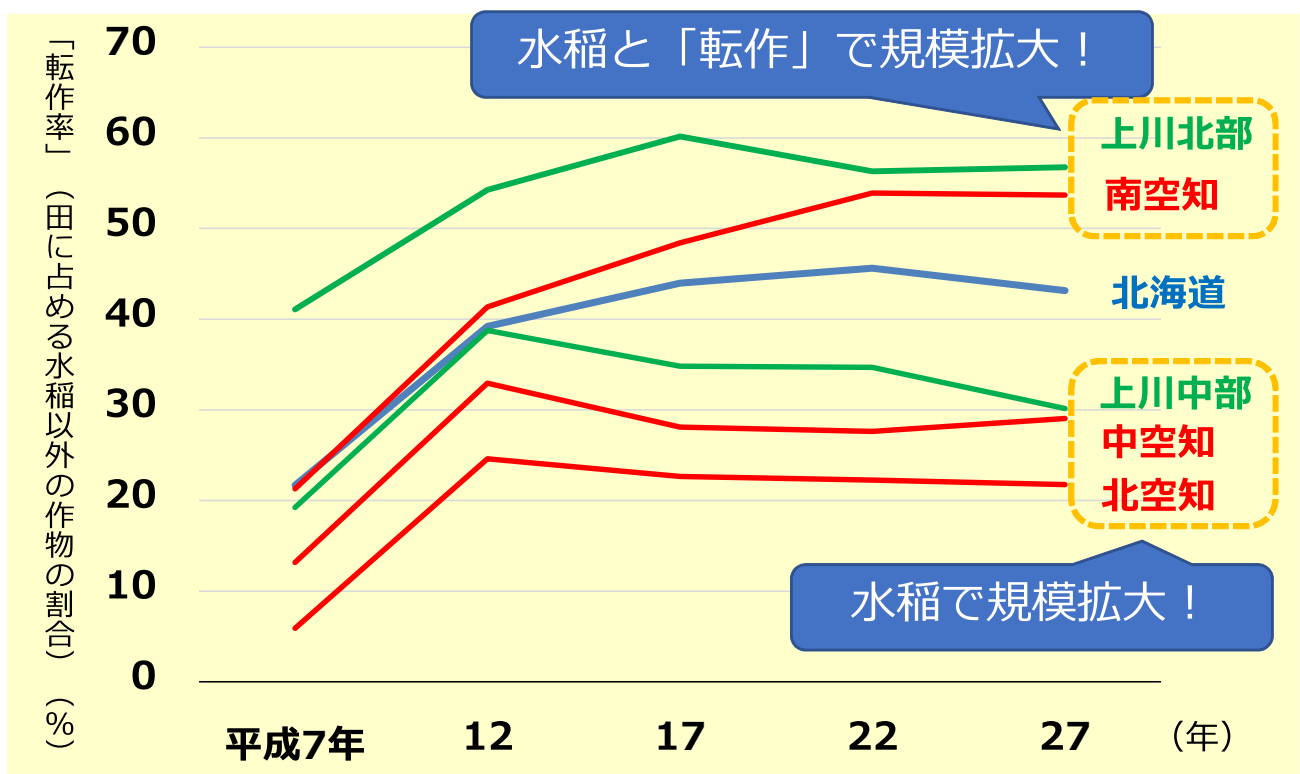
- ・ 水稲作付：10万3千ha、転作畑：11万3千ha
→ 今後、全道の動向が注目される



注)「北海道の水田における作付概況(令和3年産)」(令和4年2月、農政部)により作成。

「転作率」の推移 - 上川・空知 -

- ・ 水稲作付けの地域間差が拡大・定着



田植えの適期

- 田植えは5月中～下旬に集中（適期は約2週間）
→作付「20ha」超の経営：移植面積に限界が生じている

「農産物生育状況」 – 令和5年（2023年） –

	移植始	移植期	移植終
空知	5月17日	5月20日	5月26日
上川	–	–	5月27日
後志	5月17日	5月20日	5月27日
渡島	5月22日	5月25日	5月30日

他) 6月1日時点 石狩：98%、胆振：96%終了

11

これまでの整理を踏まえた
水張維持のための試算 2035年を念頭に

○作付目標面積：10万ha

○【個人経営体】

平均田面積：13.4ha、平均水張率：60%

		水稲作付戸数（戸、個人経営体の想定値）			
		9,500	8,000	7,000	6,000
平均田面積	(ha)	13.4	13.4	13.4	13.4
平均水張率	(%)	60	60	60	60
想定される個人経営体による 水稲作付面積	(ha)	76,380	64,320	56,280	48,240
作付目標面積との差	(ha)	23,620	35,680	43,720	51,760

○「作付目標面積との差」は誰が担う！？

→【団体経営体】への期待が高まる

12

○「多様なニーズ」への対応

主食用需要の落ち込み

→非主食用の作付けでどこまでカバーできる？

(現状の3倍程度の作付けが必要)



ここまでのまとめ

水稻作付戸数の減少、1戸当たりの作付け拡大

田植え適期に対応した作業限界（直播栽培面積の拡大）

→「今までのやり方だけでは、いよいよ担いきれず」…

こうした現状を受けて、

水田機能の維持と生産力の確保のためには、

どのような対策が必要か？

→次に、水田作経営の現状から確認

2. 水田作経営の現状はどうなっているのか？

以降の報告では、生産費等を数値で表記しています。
お手元の印刷資料も合わせてご覧ください。

水田作経営の現状①

- ・ 営農類型ごとに経営の特徴を確認（令和3年）
- 水田作経営の農業所得の増加が急務（営農継続の要件）

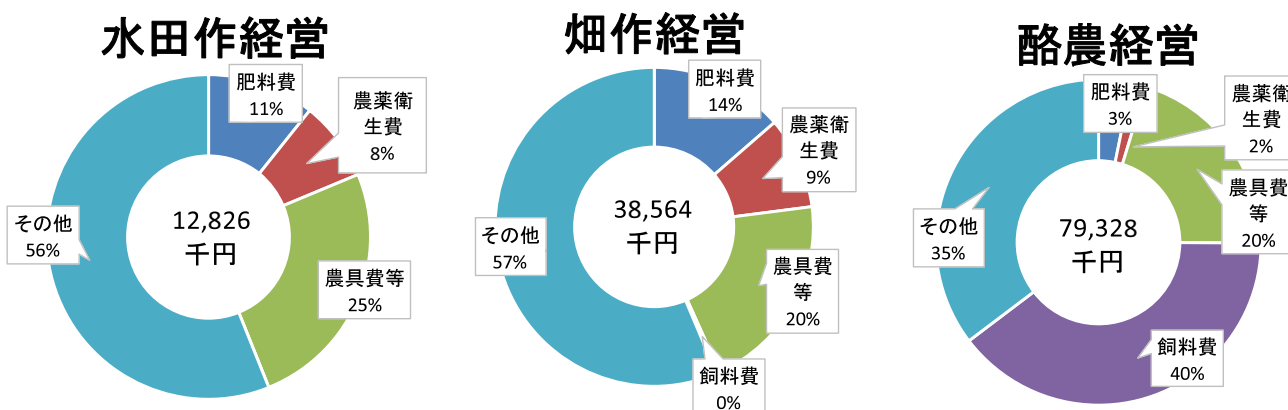
（単位：千円）

	個人経営体			法人経営体（酪農経営は全農業経営体）		
	水田作 経営	畑作 経営	酪農 経営	水田作 経営	畑作 経営	酪農 経営
農業粗収益	15,636	50,866	89,828	85,933	100,560	139,448
作物収入	10,974	33,217	2,446	55,412	52,499	4,716
共済・補助金等受取金	4,437	16,715	6,887	26,974	37,191	12,584
農業経営費	12,826	38,564	79,328	90,486	93,945	130,718
肥料費	1,379	5,262	2,584	7,676	11,573	4,106
飼料費	-	143	31,402	-	316	45,871
農薬衛生費	1,021	3,600	1,178	4,150	7,246	3,056
減価償却費	2,092	5,040	12,085	9,423	7,578	18,321
農業所得	2,810	12,302	10,500	-4,553	6,615	8,730

15

水田作経営の現状②

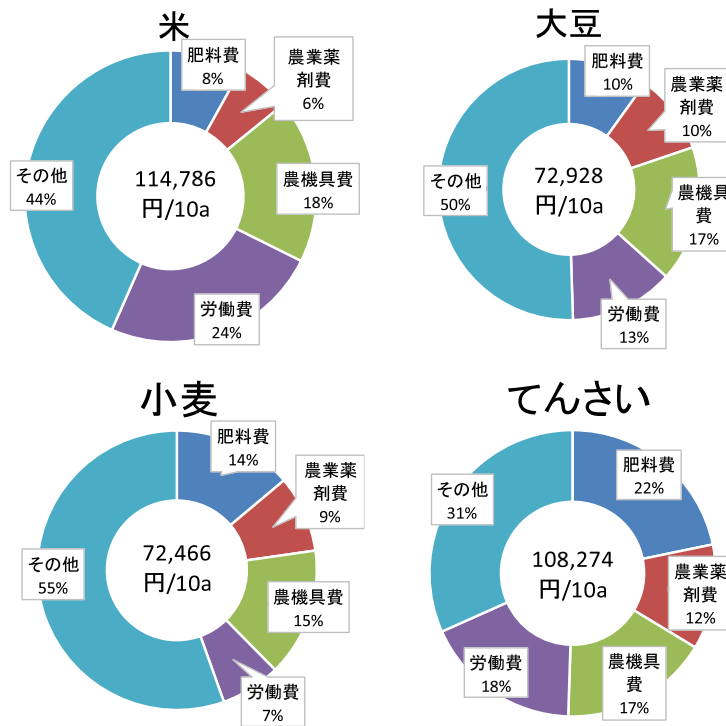
- ・ 農業経営費の内訳（費目の割合）を確認
- 水田作経営は、農機具費の割合が高い



16

生産費の現状① – 作物別 –

・ 作物別の生産費の内訳（費目の割合）を確認
 →米は、農機具費、労働費の割合が高い



生産費の現状② – 1 – 全国と北海道の違い –

・ 投下労働時間の内訳を確認
 →米は全国と比べると短い。それでも、育苗に課題。

(単位：時間/10a)

	米		小麦		大豆		てんさい
	全国	北海道	全国	北海道	全国	北海道	北海道
投下労働時間 計	22.29	15.44	3.43	2.82	6.07	5.44	10.93
(うち雇用)	2.14	2.37	0.27	0.09	1.01	0.70	1.03
直接労働時間							
種子予措・育苗	2.79	4.73	0.02	0.00	0.00	-	2.09
耕起整地	3.12	1.51	0.57	0.50	0.86	0.80	0.73
基肥	0.77	0.50	0.24	0.19	0.26	0.24	0.43
は種・定植 (直まき・田植)	2.75	2.28	0.26	0.21	0.53	0.45	1.97
追肥	0.21	0.01	0.23	0.21	0.06	0.07	0.10
除草 (中耕除草)	1.01	0.31	0.30	0.19	1.79	1.70	1.64
管理	5.69	2.58	0.55	0.34	0.71	0.40	0.34
防除	0.48	0.14	0.37	0.40	0.40	0.47	0.64
収穫・刈取・脱穀・乾燥	3.92	2.22	0.46	0.29	0.97	0.75	2.18
生産管理	0.42	0.27	0.14	0.15	0.17	0.17	0.26
間接労働時間	1.13	0.89	0.29	0.34	0.32	0.39	0.55

「生産費」と「生産コスト」？

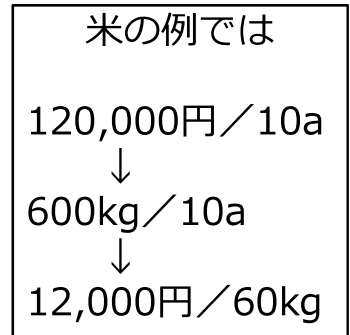
○生産費（円／10a）

：作物生産に要する10a当たりの費用

↓
 単収（kg／10a）で割り返したもの

○生産コスト（円／60kg）

：生産物の重量当たりの生産費



増収すれば、「生産コスト」は下がる！

生産費の現状② - 2 - 全国と北海道の違い -

・生産費の内訳を確認（低コスト化のヒントは？）
 →米は全国と比べると生産費、生産コストとも低い。

		米		小麦		大豆		てんさい
		全国	北海道	全国	北海道	全国	北海道	北海道
種苗費	(円/10a)	3,788	1,593	3,650	3,777	3,945	4,632	4,186
肥料費	(円/10a)	9,091	9,084	9,532	9,999	5,800	7,006	23,282
農業薬剤費	(円/10a)	7,864	6,921	5,422	6,239	6,242	7,203	12,727
光熱動力費	(円/10a)	5,101	5,343	2,204	2,272	2,582	3,054	3,910
その他諸材料費	(円/10a)	1,924	3,774	567	748	221	371	3,725
土地改良及び水利費	(円/10a)	4,335	5,912	1,133	1,370	1,352	1,536	364
賃借料及び料金	(円/10a)	11,407	10,742	16,449	19,009	8,611	9,654	2,855
物件税及び公課諸負担	(円/10a)	2,093	2,102	1,322	1,564	1,204	1,602	1,995
建物費	(円/10a)	4,009	3,953	1,077	1,137	1,151	1,325	2,144
自動車費	(円/10a)	3,779	2,144	1,657	1,832	1,637	1,828	2,611
農機具費	(円/10a)	24,130	21,102	10,448	10,759	10,946	12,425	18,466
生産管理費	(円/10a)	433	601	318	364	314	368	457
労働費	(円/10a)	33,506	27,237	5,959	5,126	10,179	9,734	19,458
副産物価額	(円/10a)	2,050	2,949	2,683	3,513	199	223	-
支払利子	(円/10a)	176	392	222	276	205	300	219
支払地代	(円/10a)	5,206	2,150	2,584	1,753	3,961	2,348	1,745
資本利子	(円/10a)	5,144	3,505	1,846	1,855	1,783	1,899	3,071
自作地地代	(円/10a)	8,209	11,180	6,260	7,899	5,671	7,866	7,059
全算入生産費	(円/10a)	128,145	114,786	67,967	72,466	65,605	72,928	108,274
単収	(kg/10a)	520	602	562	609	218	268	7,152
生産コスト	(円/60kg、 円/t)	14,758	11,439	7,258	7,132	17,985	16,296	15,139

生産費の現状③ – 北海道、米の作付規模別 –

・米の作付規模別の生産費の内訳を確認（低コスト化のヒントは？）

→大規模経営では、肥料費、農業薬剤費、農機具費が高まる傾向に

		北海道	5.0ha未満	5.0~10.0ha	10.0~15.0ha	15.0~20.0ha	20.0ha以上
種苗費	(円/10a)	1,593	1,961	1,620	1,169	1,309	1,919
肥料費	(円/10a)	9,084	8,572	8,227	8,486	9,426	10,376
農業薬剤費	(円/10a)	6,921	5,963	6,445	6,003	8,033	7,657
光熱動力費	(円/10a)	5,343	6,528	5,230	4,806	5,424	5,084
その他諸材料費	(円/10a)	3,774	4,889	4,311	3,361	3,571	3,075
土地改良及び水利費	(円/10a)	5,912	4,579	5,288	5,756	6,291	7,091
賃借料及び料金	(円/10a)	10,742	15,354	10,053	15,408	8,044	7,563
物件税及び公課諸負担	(円/10a)	2,102	2,052	2,455	1,755	2,089	2,061
建物費	(円/10a)	3,953	2,259	4,251	2,801	3,759	5,705
自動車費	(円/10a)	2,144	1,088	2,262	2,151	2,850	2,023
農機具費	(円/10a)	21,102	15,179	18,485	22,644	25,060	22,513
生産管理費	(円/10a)	601	520	625	926	814	194
労働費	(円/10a)	27,237	34,647	28,110	27,171	29,282	20,246
副産物価額	(円/10a)	2,949	1,599	2,231	2,789	3,772	3,842
支払利子	(円/10a)	392	306	505	479	371	287
支払地代	(円/10a)	2,150	1,007	1,477	2,785	2,710	2,516
資本利子	(円/10a)	3,505	2,617	3,513	3,625	3,748	3,720
自作地地代	(円/10a)	11,180	12,874	11,584	10,393	9,857	11,537
全算入生産費	(円/10a)	114,786	118,796	112,210	116,930	118,866	109,725
単収	(kg/10a)	602	571	583	617	615	616
生産コスト	(円/60kg)	11,439	12,490	11,527	11,384	11,587	10,674

21

水田作経営の現状からみた 収益性向上と低コスト化に向けた対策

【経営全体】

- ・農業所得の増加

考えられる対策は？ →粗収益の増加、経営費の減少

【投下労働時間】

- ・全国と比べると短い
- ・育苗が課題

考えられる対策は？ →直播栽培、
高密度播種短期育苗 等

・今後、米価はどうなる？
・大規模経営における
農機具費等の低減対策

【生産費、生産コスト】

- ・全国と比べると低い
- ・さらなる低コスト化が課題

考えられる対策は？ →多収品種の導入 等

その他、
スマート・省力化技術

22

3. これからの米作りを考えよう！

23

「これからの米作りを考える」うえでの視点

- 「誰が作るのか？」
 - ・ 個人経営体は減少、経営規模は拡大
→ 作付維持に限界
 - ・ 団体経営体がカバーできるか？
→ 農地所有適格法人：3,889経営体（令和4年1月）
→ どのような体制のもと、何を技術導入？

「春作業の省力化待ったなし」

- 「どのように作るのか？」
 - ・ 省力化と低コスト化に向けて
【多収栽培】と【直播栽培】が有望
→ 経済性評価が実施されている

その他、
スマート・省力化技術

【多収品種】

→ 専用品種による多収で、大幅な生産コスト削減が可能。
(平成30年指導参考事項「北海道における飼料用米生産の経済性評価」等)

【直播栽培】

→ 省力化に貢献。所得を確保するには、増収が不可欠。
(令和元年指導参考事項「直播栽培による「そらゆたか」を導入した飼料用米生産の経済性評価」等)

24

多収品種・直播栽培の経済性評価例

(単位：円/10a)

	直播栽培		移植栽培 (稚苗)	農林水産省 米生産費 調査 (15ha以上)
	飼料用	主食用	主食用	
	「そらゆたか」	「大地の星」	「ななつぼし」	
種 苗 費	7,916	7,784	2,811	1,476
肥 料 費	7,329	7,329	6,456	8,950
農 業 薬 剤 費	9,232	11,109	8,488	7,856
光 熱 動 力 費	3,892	3,433	3,948	3,424
その 他 の 諸 材 料 費	1,288	320	5,750	2,907
土 地 改 良 水 利 費	5,589	5,589	5,589	5,470
賃 借 料 及 び 料 金	450	4,662	5,032	7,824
物 件 税 及 び 公 課 諸 負 担	3,566	3,741	4,416	2,093
建 物 費	4,228	4,361	5,660	3,657
自 動 車 費	1,525	1,525	1,686	1,470
農 機 具 費	25,360	25,360	23,793	18,659
生 産 管 理 費	642	662	596	322
物 財 費	71,017	75,875	74,225	64,108
労 働 費	10,918	10,918	19,375	23,570
費 用 合 計	81,935	86,793	93,600	87,678
副 産 物 価 額	0	1,277	1,418	2,827
資 本 利 子	6,466	6,561	6,626	3,696
地 代	16,000	16,000	16,000	13,545
全 算 入 生 産 費	104,401	108,077	114,808	102,092
単 収 (kg/10a)	745	588	653	543
生 産 コ ス ト (円 / 60kg)	8,408	11,028	10,549	11,266

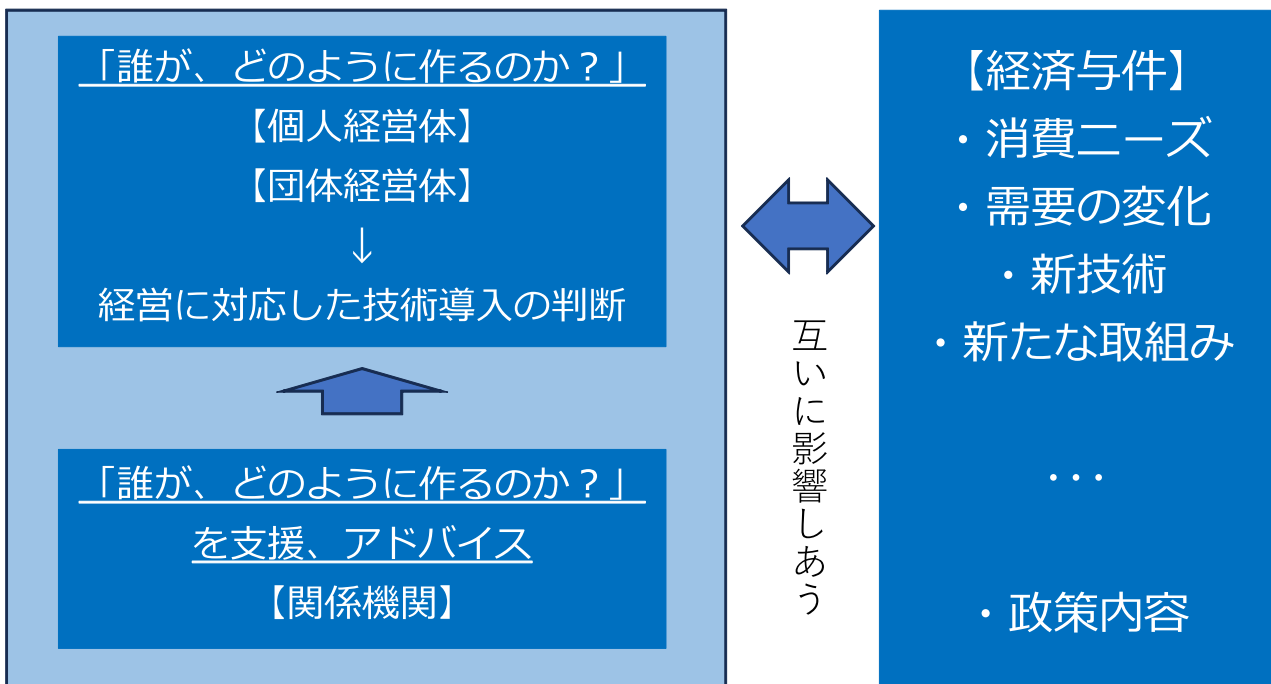
10a当たり全算入生産費
は変わらない
→増収によって
生産コストの低減が可能！



「そらきらり」、「直播栽培」
→増収による
生産コストの低減を期待！

25

本日の報告のまとめ - 概念図 -



➡ 経済性評価に基づく評価を継続（連続）
互いに、良好なバランスを保つ

26

本日の報告のまとめ

1. 作付戸数の減少、規模拡大は進む

→「誰が、どのように作るのか？」

に対応した技術導入とその判断

→関係機関は、その支援

2. 収益性向上と低コスト化対策を確立

→米生産費等から、対策（ヒント）が見つかるはず

3. 経済性評価に基づく評価を継続しよう

→水田機能の維持と生産力の確保に寄与！